HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	留学生と日本入学生がともに日本語で学ぶ「多文化交流科目」の創設
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 18, 1-1
Issue Date	2014-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59655
Type	other
File Information	JISCHU18_01.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学留学生センター紀要　第18号　(2014)［特集］

留学生と日本人学生がともに日本語で学ぶ「多文化交流科目」の創設

要　旨

本特集は、北海道大学国際本部留学生センターで2013年度より提供を開始した「多文化交流科目」の開発の経緯、意義および課題を整理し提示するとともに、各授業担当者による、これまで２年間の授業実践の報告を行うものである。「多文化交流科目」は、留学生と日本人学生が、ともに日本語で学ぶ、問題解決型・プロジェクト型の授業群である。2012年度採択のグローバル人材育成推進事業により創設された新渡戸カレッジの修了要件科目の一つとして、提供を開始した。

多様な背景を持つ学生がともに学び合う環境の創出は、留学生・日本人学生の継続的な交流機会のきっかけの提供やコミュニケーション力、異文化理解力等の汎用的能力の育成、留学生の日本語力の向上や日本人学生の海外留学促進等に貢献すると考えられる。一方、北海道大学のような研究中心大学では、留学生の圧倒的多数が理系の大学院生であるため、上級レベルの日本語力を持つ留学生数の確保はもちろん、主に学部１年生を対象に開講される一般教育演習（フレッシュマンセミナー）の受講者である日本人学生とは、教育経験をはじめ、共通の関心・話題の欠如が課題とされる。また、留学生に対する日本語教育が原則単位化されていないことに起因する問題も生じている。今後は、授業改善や履修指導、学生の関心に沿った幅広いテーマでの授業提供の必要性とともに、学部交換留学生数の増加や超短期プログラムの開発等の制度整備が求められる。

〔キーワード〕多文化交流科目、共修、協働学習、問題解決学習、プロジェクト型学習